

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2023

第2戦 NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース レポート

国内最長レース“富士 24 時間”でPIAA ユーザーが躍進！

PIAA のライティングシステムを武器に Nissan Z Racing Concept が ST-Q クラスを制覇！



2 台のNISSAN Z GT4 が ST-Z クラスで活躍！



ST-2 クラスでは ENDLESS GR YARIS が優勝。ST-X クラスでは 2 台の GT-R が躍進！



■概要/Outline

2008年の十勝24時間レースを最後に国内での開催が見合わされてきた“24時間耐久レース”が2018年に復活。以来、国内最長レースとして定着している「NAPAC 富士 SUPER TECH24 時間レース」が5月25日-28日、静岡県富士スピードウェイを舞台に開催。

今年で6回目の開催を迎える同大会は、スーパー耐久シリーズの第2戦として開催されており、計8クラスに総勢52台がエントリー。国内レース競技で唯一ナイトセッションが行われるイベントとなっているだけに、ライティングシステムのサプライヤーとしてWRCをはじめとする国内外のモータースポーツシーンで多くのチーム、ドライバーなどをサポートするPIAAも、数多くのチームをサポートしており、各クラスでPIAAユーザーが活躍しました。

なかでも注目を集めたのがST-Qクラスで、NISMOの230号車「Nissan Z Racing Concept」が同クラスを制覇。さらにST-Zクラスでもナニワ電装 TEAM IMPULの20号車「ナニワ電装 TEAM IMPUL Z」、TEAM ZEROONEの26号車「rafinee 日産メカニックチャレンジ Z GT4」といったように2台のNISSAN Z GT4が完走を果たした。



#230 Nissan Z Racing Concept



#26 rafinee 日産メカニックチャレンジ Z GT4

#20 ナニワ電装 TEAM IMPUL Z

さらに最高峰のST-XクラスでもPIAAのライティングシステムが標準装備されている2台のNISSAN GT-R NISMO GT3が総合優勝をかけてトップ争いを展開。HELM MOTORSPORTSの1号車「HELM MOTORSPORTS GTR GT3」は、序盤にトップを走行する速さも見せたがマシントラブルで4位に終わり、GTNET MotorSportsの819号車「DAISHIN MPRACING GT-R GT3」がトップと同一周回の730周を走行し、僅差の2位でフィニッシュなど素晴らしいパフォーマンスを披露した。

また、長年に渡ってスーパー耐久に参戦しているENDLESS SPORTSもPIAAのサポートチームで2023年の富士24時間レースでも素晴らしいパフォーマンスを披露している。残念ながらST-4クラスに参戦した3号車「ENDLESS GR86」はマシントラブルでクラス5位に終わったが、ST-2クラスでは13号車「ENDLESS GR YARIS」がGRヤリスでは初のクラス制覇。



#1 HELM MOTORSPORTS GT-R GT3



#819 GTNET MotorSports DAISHIN MP RACING GT-R GT3



#3 ENDLESS GR86



#13 ENDLESS GR YARIS

そのほか、ST-5 クラスでも LOVEDRIVE RACING の 50 号車「LOVEDRIVE ロードスター」が 4 位、チーム BRIDE の 4 号車「THE BRIDE FIT」が 5 位につけるなど過酷な 24 時間レースを走破した。



#50 LOVEDRIVE RACING ロードスター



#4 THE BRIDE FIT

このように 2023 年の大会でも PIAA ユーザーがすばらしい走りを発揮しており、PIAA のライティングシステムのパフォーマンスを改めて証明した。

■レポート/Report

2008 年の十勝 24 時間レース以来、国内としては 10 年ぶり、富士スピードウェイとしては 50 年ぶりとなる 24 時間レース「富士 SUPER TEC24 時間レース」が 2018 年に復活。以来、スーパー耐久シリーズの名物ラウンドとして定着し、毎年のように各クラスでドラマチックな名勝負が展開されるほか、コースサイドでは多くのレースファンがキャンプやバーベキューをしながらレース観戦を楽しむなど、ドイツのニュルブルクリンク 24 時間の雰囲気になり、まさに“富士 24 時間”は年に一度の祭典として親しまれている。



この国内レースシーンで最長の距離と時間を誇る特別な一戦が帰ってきた。6 回目の開催となる 2023 年の大会には計 8 クラスに 52 台がエントリー。国内のトップシリーズで活躍する主要チームおよび有カドライバーが過酷な耐久レースに参戦していた。

富士スピードウェイは 24 時間レースの開催に合わせて照明設備を増設してきたことから、ナイトセッションでも各コーナーは明るく照らされていたが、優勝を目指す主要チームにとってはライティングシステムの強化が課題となっていたのだろう。その要望に応えるべく、ライティングシステムのサプライヤーとして WRC（世界ラリー選手権）やニュルブルクリンク 24 時間レースで豊富な実績を持つ PIAA も富士 24 時間で数多くのチームをサポートしていた。



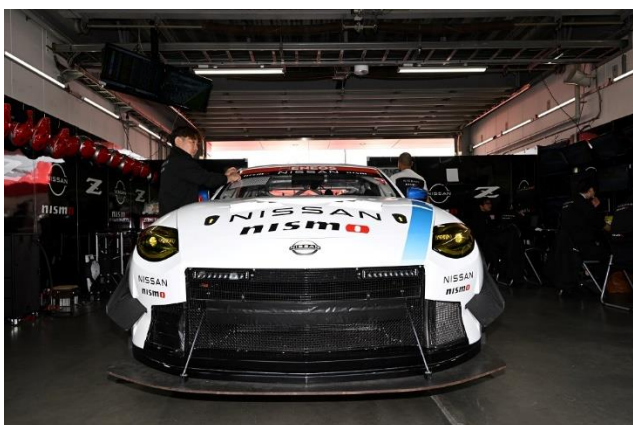
なかでも最大の注目を集めていたのが、「他のクラスに該当しない、STO が認めた開発車両」を対象とする ST-Q クラスにほかならない。

同クラスにはトヨタ系チーム、ORC ROOKIE Racing が水素エンジン搭載の 32 号車「ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept」やカーボンニュートラル燃料を使用した 28 号車「ORC ROOKIE GT86 CNF Concept」を投入したほか、スバル系チームの Team SDA Engineering がカーボンニュートラル燃料を使用した 61 号車「Team SDA Engineering BRZ CNF Concept」、マツダ系チームの MAZDA SPIRIT RACING がバイオディーゼル燃料を使用した 55 号車「MAZDA SPIRIT RACING

MAZDA3 Bio concept」を投入するなど多くの自動車メーカーがカーボンニュートラルに対応した次世代の開発モデルを投入。さらに2023年は新たにホンダ系チームの Team HRC がカーボンニュートラル燃料を使用した271号車「CIVIC TYPE R CNF-R」で新規参戦を果たしたことも2023年大会のトピックスと言えるでしょう。

まさにST-Qクラスは脱炭素に向けて次世代のマシンが集う“実験場”となっており、各メーカーが参入していることから、日本のみならず世界的に見ても多くの注目を集めているのだが、同クラスで圧倒的なスピードを見せつけたのが、NISMOが投入した230号車「Nissan Z Racing Concept」だった。

同マシンは新型Zをベースに開発されたレーシングマシンで、カーボンニュートラル燃料を採用。予選でST-Qクラスのトップタイムを叩き出すと、決勝でもPIAAのLEDバーランプを武器に安定した走りでラップを刻んでいた。そのスピードはST-Zクラスを凌駕するほどのレベルで、最終的には総合8位で完走を果たし、ST-Qクラスで勝利を獲得した。



ちなみに同じく新型Zをベースに開発されたFIA規定モデル、NISSAN Z GT4もST-Zクラスに参戦。ナニワ電装 TEAM IMPULの20号車「ナニワ電装 TEAM IMPUL Z」、TEAM ZEROONEの26号車「rafinee 日産メカニックチャレンジZ GT4」と2台がPIAAのLEDバーランプを武器に過酷な24時間レースを戦っており、ナニワ電装 TEAM IMPUL Zが8位、rafinee 日産メカニックチャレンジZ GT4が9位で完走を果たした。当初は追加ランプの装着をしない予定だったが、直前テストでドライバーからの要望もあり、230号車のZも含めて、急遽PIAAが対応をさせて頂く事になりました。



もちろん、最高峰の ST-X クラスでは PIAA のライティングシステムを公認パーツとして標準装備した 2 台の NISSAN GT-R NISMO GT3 が総合優勝をかけてトップ争いを展開していた。残念ながら昨年の大会ウィナーである HELM MOTORSPORTS の 1 号車「HELM MOTORSPORTS GTR GT3」はポールポジションを獲得したほか、レースでもトップ争いを展開しながらもマシントラブルで緊急ピットインを強いられたことで 4 位に終わった。しかし、GTNET MotoSports の 819 号車「DAISHIN MP Racing GT-R GT3」がコンスタントな走りを披露し、ST-X クラスで 2 位入賞、最高峰クラスで表彰台を獲得した。特にナイトステージにおいては、PIAA 製の大型補助ランプは抜群の明るさを見せ、サーキットに訪れたファンにも強烈な印象を示しました。



一方、前身となる N1 耐久レースの時代から積極的にスーパー耐久に参戦してきた ENDLESS SPORTS も PIAA のサポートチームとして富士 24 時間レースで活躍。残念ながら ST-4 クラスに参戦した 3 号車「ENDLESS GR86」はマシントラブルによりクラス 5 位に終わったが、フォグランプに PIAA 製の市販 LED バルブをインストールした 13 号車「ENDLESS GR YARIS」が ST-2 クラスで猛威を發揮し、序盤 10 分のタイムペナルティを受けながら、チーム全員が諦めることなく最後尾から追い上げて、大逆転でクラス優勝を獲得しました。



さらに、ST-5 クラスに目を向けると LOVEDRIVE RACING の 50 号車「LOVEDRIVE ロードスター」が今回より初めて装着した PIAA の LED バーランプを武器にナイトセッションでも安定した走りを披露し、クラス 4 位で完走。同チームは直前の公式テストで初めて PIAA LED バーランプを装着し、後軸調整などチェックをして本番に臨みました。



同じく ST-5 クラスのチーム BRIDE の 4 号車「THE BRIDE FIT」も PIAA の LED バーランプを武器に安定した走りを披露しており、クラス 5 位でチェッカーを受けた。前方向を中心に照射するタイプの LED バーランプを 2 年連続で装着しましたが、ドライバーからの要望もあり今後の製品選定、開発などのヒントになる案件も確認出来たので、さらに良い製品づくりにつなげられるイベントとなりました。



6 度目の開催となった 2023 年の富士スーパーテック 24 時間レースも FCY と SC が続出。とくにナイトセッションではハプニングが続き、スタートから約 12 時間後には競技車両のクラッシュでガードレールの修復が必要になったことにより、赤旗が提示され、約 1 時間に渡ってレースが中断されるなど例年と同様にサバイバルレースとなったが、それでも PIAA ユーザーたちは各クラスで素晴らしい走りを披露することによって、PIAA のライティングシステムの安定感したパフォーマンスを過酷な長距離レースで証明した。

■フォトギャラリー／Photo Gallery



コースサイドにはイベント広場が OPEN し夜遅くまで賑わいました



恒例のレース中の打ち上げ花火



ダンロップコーナー外側から、テールライトの軌跡



コースサイドで焚火もOK



深夜のホームストレート、ピット側は一晩中明るい



コースサイドにはサウナの持ち込みも！



様々なライティング仕様で走行するマシン



ダンロップコーナー～13コーナー



夜明けの富士山とテントを見ながら走行



世界初公開 FCEV（燃料電池車）のミライ スポーツコンセプト



Formula Drift Japan で WRC チャンピオン カル・バンパ選手がドライブした GR コローラスポーツも NAPAC コーナーに展示



ST-X クラス 昨年の総合優勝チーム #1 HELM MOTORSPORTS GT-R GT3

ヘッドランプには PIAA 製 LED バルブ（市販品）、補助灯は PIAA 製競技用 HID ランプ（GT3 車両に公認設定）
 ニュルブルクリンク 24 時間レースでも GT-R や LEXUS LFA にも採用されスペック、耐久性を認められた製品



総合2位 #819 GTNET MotorSports DAISHIN MP RACING GT-R GT3



ST-Zクラス #20 ナニワ電気 TEAM IMPUL Z PIAA製LEDバーランプをフロントグリルにインストール
主に100R、300Rのクリッピングポイントを狙ったセッティングで走行！

今回ドライバーには星野一樹監督兼選手がTOYOTA GAZOO Racing Europeの中嶋一貴副会長にTwitterで
声をかけたところから、両社、チームなどの理解、協力によりメーカーの垣根を超えた陣容が実現！



ST-Z クラス #26 rafinee 日産メカニックチャレンジ Z GT4 PIAA 製 LED バールランプをグリルにインストール
このクラスはヘッドライトを黄色にするレギュレーションによって、光量が落ちた分を LED バールランプでサポート！

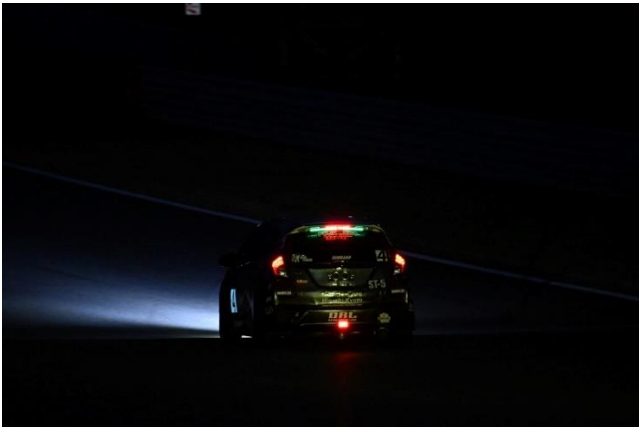


#3 ENDLESS GR86 と #13 ENDLESS GR YARIS
YARIS のフォグランプには PIAA 製 LED バルブ (市販品) をインストール



ST-5 クラス #50 LOVEDRIVE ロードスター

PIAA 製 LED バーランプをインストール



ST-5 クラス #4 THE BRIDE FIT

PIAA 製 LED バーランプをインストール



イベント広場ではカーボンニュートラル科学館がOPEN

燃料電池、水素、バッテリーEV など多くの車両や装置がクイズ形式で展示され、親子連れなどが楽しみながらカーボンニュートラルについて興味深く体験していた！



イベント広場全体の様子、中央には NAPAC 加盟各社の PR ブースが多数出展

イベントステージではドライバートークショー、レースクイーンステージに加えて、

NAPAC がカスタムモーターセクションとして「オールジャンルカスタムの世界」と銘打った車両展示のPR など盛りだくさんな催しで賑わいました！

PIAA オフィシャル HP

<https://www.piaa.co.jp/4rin/light/>

PIAA オフィシャル Facebook ページ

<https://www.facebook.com/drivewithpiaa/>

スーパー耐久シリーズオフィシャル HP

<https://supertaikyuu.com/>